

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

八代市大島地先における被覆網によるアサリ資源管理

県南広域本部水産課・川崎 信司

【背景・目的・目標】

平成 23 年（2011 年）の大雨による影響を受け、減少していた八代海のアサリ資源は、漁業者等が被覆網による資源管理を進めたことにより、その再生の兆しが見え始めていた。しかし、令和 2 年 7 月豪雨によるアサリ生息海域の塩分低下の影響により、多くのアサリがへい死する被害が発生した。そこで、当水産課では、令和 2 年度（2020 年度）に八代市鏡町地先における現場指導により、令和 2 年 7 月豪雨後に生残したアサリ稚貝を被覆網で管理することで、翌年の 3 月には、殻長 30mm・拡幅 12 mmを超える漁獲サイズに成長することを明らかにした。

今年度は、八代市大島地先をモデル地区として、より効率的な被覆網によるアサリの資源管理手法を開発することを目的として、現地指導を行った。

【普及の内容・特徴】

八代市大島地先において、被覆網下の春（3 月～6 月頃）生まれと推測されるアサリ稚貝を用いて、6 月に被覆網を設置し、管理育成を行い、翌年春（4 月～5 月）に漁獲するという、1 年単位での生産方法を提案し、その実証的な取組みを行った。

場所：八代市大島地区の干潟漁場で稚貝の着底・育成が期待される箇所

期間：令和 3 年（2021 年）6 月 29 日～令和 4 年（2022 年）3 月 17 日

方法：目合い 9mm 角目、大きさ 4m×4m のラッセル網を令和 3 年（2021 年）6 月 29 日に設置した。月 1 回、10cm 方形枠を用いて 2 回枠取りし、1mm 角目の篩で篩い、篩に残ったアサリを計数して、殻長のヒストグラムと生息密度（個数/m²）の推移を確認した。

【成果・活用】

令和 3 年 6 月 29 日に設置した被覆網下のアサリ稚貝は、順調に生育し、令和 4 年（2022 年）3 月 17 日には、漁獲サイズとなる殻長 30 mm以上までに成長した。八代海北部干潟のアサリ漁場においては、この生産方法により、1 年単位で効率的なアサリを生産が可能となることを実証できた。さらに、梅雨前に塩分低下の影響による被害を受けやすいアサリ成貝を漁獲することで、梅雨時期のへい死の被害軽減も期待されると考えられる。

【達成度・自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

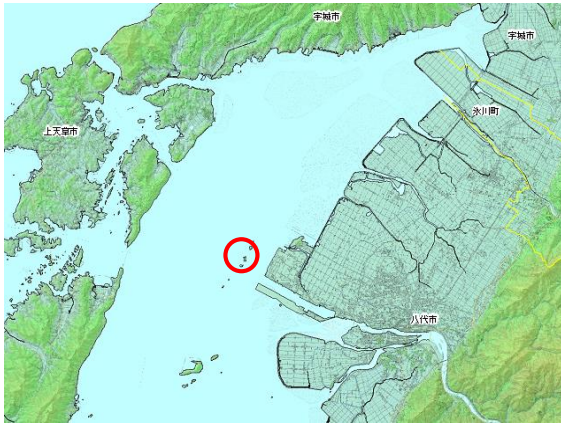


図1 八代海の八代市大島地先の位置図



図2 大島地先アサリ漁場状況 (R3. 9. 10)

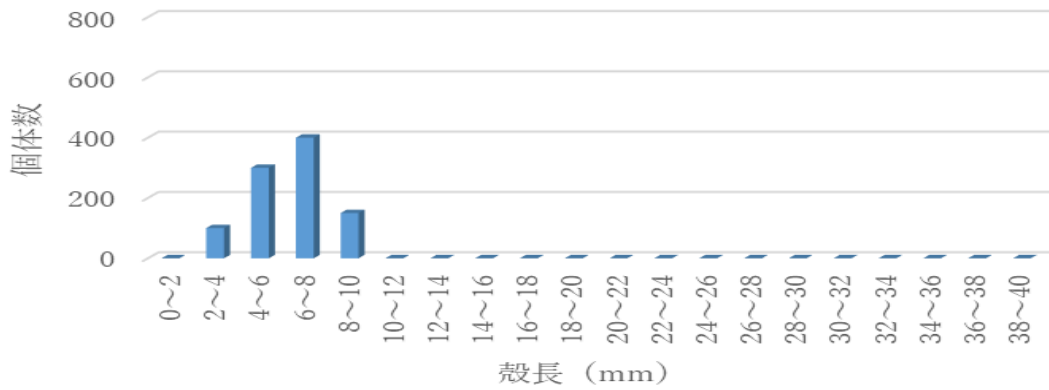


図3 被覆網下のアサリ殻長組成 (R3. 6. 29)

※R3. 6. 29 の被覆網設置時には、春(3月~6月頃)生まれと推測の殻長10mmに満たない被覆網下のアサリ稚貝の総数は950個/m²であった。

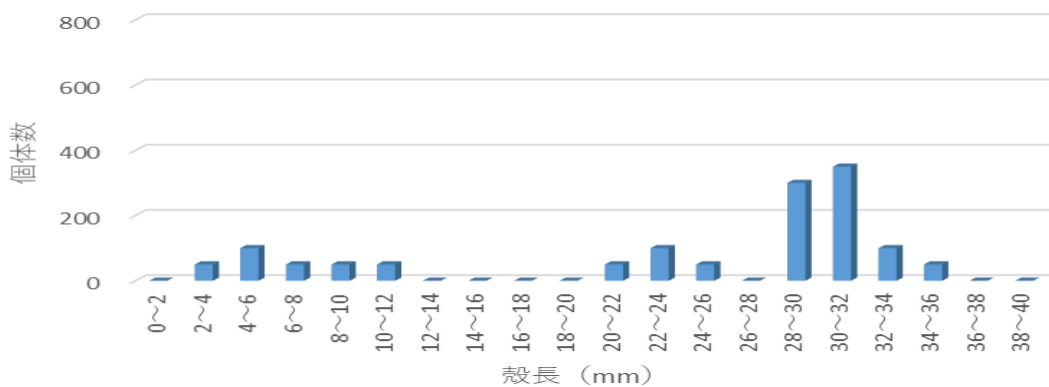


図4 被覆網下のアサリ殻長組成 (R4. 3. 17)

※被覆網設置約9ヶ月後のR4. 3. 17には、漁獲サイズとなる殻長30mm以上のアサリが、500個/m²検出された。また、前年秋生まれと推測される殻長10mmに満たない稚貝も確認され、被覆網下のアサリの総数は1300個/m²であった。